

研究計画の概要

唐津市立巖木小学校

校長 黒木 恵二

1 研究主題名

主体的に思いを伝え合おうとする児童を育む外国語活動の研究
～関わり合う楽しさを実感する言語活動の充実を通して～

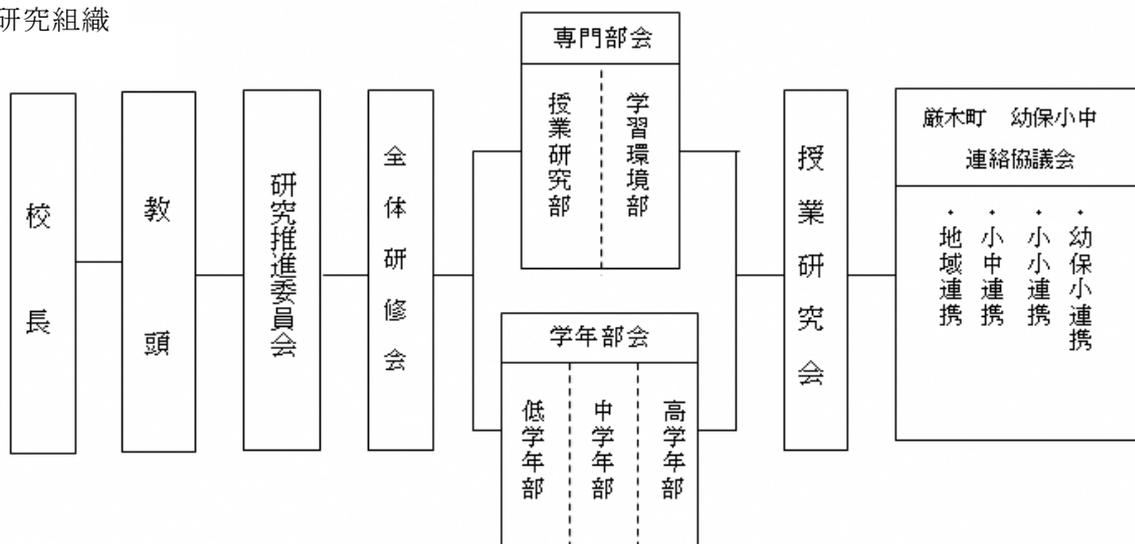
2 研究主題設定の趣旨

21世紀はグローバル化が急速に発展し、学校教育においても、英語教育を充実させることが重要な課題となっている。平成29年3月に告示された学習指導要領では、子どもに育成すべき資質・能力の柱の1つである「学びに向かう力、人間性等」において、外国語科では、「外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う」、外国語活動では、「外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う」と明記された。そこで、外国語を通じて他者とコミュニケーションを図り伝え合う力を高めることで、積極的に人や社会と関わり、自己を表現し、他者と共感するなど互いの存在について理解を深め、尊重しようとする態度を育成していかなければならないと考える。

本校では、平成30年度に佐賀県研究指定を受け、英語教育の充実に取り組んできた。児童の興味・関心に合わせて、バックワードデザインによる単元構想を行い、自分や友達、日本文化や異文化の良さを認め合うコミュニケーション活動を取り入れた授業づくりを行ってきた。その成果として、「自分のことをもっと知ってほしい」「友達のことをもっと知りたい」という思いをもち、進んで自分の思いを伝えようとする児童の姿が見られるようになってきている。しかし、もっている知識を駆使して、何とか工夫して自分の思いを伝えようしたり、相手の話を受け止めて言葉を返したり会話を続けたりすることには課題が残る。また、高学年において、外国語活動アンケートで「英語を使ったお話がだいたいわかりますか」に「できている」と回答した児童が1学期から2学期にかけて減少する傾向にあった。その要因としては、新教材で取り上げられている英語に難しさを感じていることが考えられる。移行期の最終年度となる今年度は、外国語科の実施に向けて、新教材の活用について理解を深め、実践していく必要がある。

そこで、2年次となる今年度は、外国語活動における言語活動の工夫に焦点化し、研究を深めていきたい。児童が興味・関心をもつ題材を扱い、聞いたり話したりする必然性のある言語活動の工夫を行うことで、児童は「知りたい」「伝えたい」という思いをもち、相手の発する外国語を注意深く聞いて何とか相手の思いを理解しようしたり、もっている知識を駆使して他者に外国語で自分の思いを何とか伝えようとする体験を積み重ねていく。これらの体験から、関わり合う楽しさを実感し、主体的に自分の思いを伝え合う児童を育成することができると考え、本主題を設定した。

3 研究組織



- 【学年部】○高学年部（5・6年生 外国語科に関わる取り組み）
○中学年部（3・4年生 外国語活動に関わる取り組み）
○低学年部（1・2年生 外国語活動を支える取り組み）
- 【専門部】○授業研究部（教師の指導力向上研修，授業づくり，実態調査，評価方法）
○学習環境部（校内の環境整備，English Weekの実施，教材の整備）

4 研究内容

- (1) 英語を使って自分の思いを伝え合うモデルとしての教師の指導力向上の研修
- (2) 児童の実態に合わせた言語活動を取り入れた授業づくり
（「言語活動」に関する理論研究，バックワードデザインによる単元構想，新教材の活用，小中連携）
- (3) 児童が関わり合う楽しさを実感するための評価の工夫
（アンケートによる事態調査，振り返りカード）
- (4) 安心して関わり合うことができる環境づくり，日常的に外国語に親しめる場の設定
（反応言葉，English Weekの実施，日本文化・異文化について知るクイズや掲示）

5 期待される成果

- (1) Classroom English やゲームのデモンストレーションなどについて教師の指導力向上を目指した研修を行うことで，自信をもって外国語活動に取り組むことができる教師が増え，自分の思いを伝え合うモデルとなることができる。
- (2) 自分や友だち，日本文化や異文化の良さを認め合う授業づくりを行い，児童の実態に合わせて言語活動を充実させることで，関わる楽しさを感じ，進んで思いを伝え合おうとする児童の姿が見られる。
- (3) アンケートによる実態調査や評価の工夫を行うことで，関わることで新たに知ったことやできるようになったことなど児童が自分自身の伸びを感じ，前向きに取り組むことができる。
- (4) 環境づくりの工夫を行うことで，児童が安心して関わるができる。また，日本文化・異文化を知り，外国語活動への意欲を高めることができる。